

■ 令和6年度 第2回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会

日 時：令和6年8月26日（月）午後2時～

会 場：西区役所健康センター棟3階大会議室

◇次第1 開会

（須貝係長）

定刻となりましたので「令和6年度 第2回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会」を始めさせていただきます。

本日、進行を務めさせていただきます西区健康福祉課地域福祉担当係長の須貝でございます。よろしく申し上げます。

本日の委員会は、コミュニティ中野小屋 小竹委員、真砂小学校区コミュニティ協議会 佐野委員、山田校区ふれあい協議会 阿部委員、西新潟中央病院 浅妻委員から欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。

本日の会議ですが、後日、会議録を公開するため、録音をさせていただきます。また、内部の記録として会議の様子を撮影させていただきますのでご了承ください。

本日の委員会ですが、8月22日から区役所に実習に来ている学生3名が参加させていただきます。

（吉岡課長）

西区健康福祉課長の吉岡でございます。本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。先週の木曜日からインターンの学生さんが西区役所に来られていて日替わりで各課を回って経験してもらっているのですが、本日は健康福祉課の順番ということで、今日の会議に参加させていただきます。

◇次第2 あいさつ

（須貝係長）

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、西区社会福祉協議会 阿部事務局長よりご挨拶をお願いいたします。

（阿部事務局長）

西区社会福祉協議会の阿部でございます。本日は暑い中、またお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。前回第1回目では、西区ささえあいプランの全体計画の進行管理ということで行政と社協の前期の評価と後期の目標を報告してもらいました。本日は地域福祉活動計画の部分で、皆様方が実際に地域で取り組まれていらっしゃる地区別計画の進捗について、

近況も加えながら報告をいただきたいと思っております。本日は限られた時間の中で話したりないこともあるかと思いますが、時間内でということですのでよろしくお願いいたします。

◇次第3 ささえあいプラン地区別計画の報告（1）いきいき西区支え合いプランとは  
（須貝係長）

ありがとうございました。続きまして「次第3 ささえあいプラン地域別計画の報告」に移ります。ここからは、西区社会福祉協議会の相田さんをお願いいたします。

（相田副主査）

皆さまこんにちは。西区社会福祉協議会の相田と申します。私は次第の中の地域別計画の報告の部分について進行をさせていただきます。まず皆さまの報告をいただく前に、今年度から新しく推進委員になられた方もいらっしゃいますので、青木委員長から地域福祉計画・地域福祉活動計画についてご説明をいただきたいと思っております。すでにご存じの皆さまも復習としてお聞きいただければと思います。それでは青木委員長をお願いいたします。

（青木委員長からいきいき西区ささえあいプランについて説明）

◇次第3 ささえあいプラン地区別計画の報告（2）各地区活動報告  
（相田副主査）

青木委員長、ありがとうございました。

ではここからは、各地区の委員の皆さまから地域別計画の報告の時間となっております。

各地区4分程度で地域別計画の紹介をお願いいたします。私相田がインタビュアーになりますので、皆さまに事前送付しておりました、項目ごとにお話ししていただければと思います。

すべての地区の報告終了後に、まとめて質問時間を設けたいと思っております。

それではA3横の「第3次いきいき西区ささえあいプラン地域別計画振り返りシート」順に報告をお願いしたいと思います。毎回トップバッターになって申し訳ございませんが、内野地区の高橋委員から報告をお願いします。

（高橋委員）

内野小学校区の高橋です。

地区懇談会での課題ですが、個人情報の問題について触れられました。災害時に避難をどのようにするかという時に、民生委員さんの持っている情報を自治会長とどうやって共有していくのかというのは、どの自治会でも課題なんだということが見えてきました。

また、民生委員さんのいない自治会もあるということで、その担い手をどうするのかということも課題だなということはお出しておりますが、ただ、皆さんが協力していないわけではなくて、

どこかに一極集中してしまう点がありまして、そこを分散してうまくやっていけばいいんじゃないかなと個人的に感じております。

昨年度の取組みは、表のとおりですが、おそらく皆様と一緒にようなものが挙げられているかと思います。課題はありながらも各々の自治会で一生懸命頑張っている様子を発表していただきました。

「取り組みの上での課題」ということで、学校との連携というものを敢えて挙げているのですが、内野小学校区は、内野小学校との連携は非常にうまくいっていると私自身も思っています。例えば、①に内野まつりの通常開催がコロナ明けの去年から開催されていますけれども、今年は内野小学校の子どもたちが自ら出展して、自らもまつりを盛り上げるということを自治会としてもコミュニティとしても、まち協としても支えていこうということを学校と地域の連携が非常にここ数年うまく取れていると感じているのですが、内野小学校を出て、内野中学校に行ったときに、中学校区というのが西内野小学校と内野小学校なのですけれども、そこでの連携がさらに出てくるといいのではないかなということを皆さん思っているのかなと思います。

内野という地域柄、自治会長さんたちもどうやって地域を盛り上げていこうかという際に、次世代を育成していくことって大事だよねと、子どもたちに愛着を持ってもらうようなことを自治会や地域としても発信していこうということを一生懸命頑張って、それを小学校と連携しながらやっていけているところが、中学校に行ってから、そこが分断されているなという問題が、ここ数年見えてきていると思ひまして、せっかく育った地域愛を中学校に行った後も育成していけば、ゆくゆく子どもたちが内野に戻ってくる、支え合いのしくみづくりがもっと上手くいくのではないかなということを地域の皆さんとも共有できていて、そこが課題だなということを挙げています。去年の課題については以上です。

(相田副主査)

ありがとうございます。それでは、今年度の取組みについてお願いします。

(高橋委員)

地区懇談会の際、コロナ明けの新しいシステム、仕組みを作るのは、今が一番大事だろうということを皆さん認識されてきました。②にも出ていますが、新しい自治会行事を作っていく、今までやっていたものを復活させるという自治会もありますけれども、コロナが起きてやめたからそのままやめようというところも多数あります。ただ、それではやはり関係性が、顔の見える地域づくり、関係づくりというのができないよねということで、もっと若い人を取り入れてみたりとか、子ども会と老人会が共に行事を計画してみたりだとか、試行錯誤はありますが、今がそのタイミングだねということを皆さんが認識しているので今年度はそこに力を入れていくのかなと思っています。

また、各取組みが支え合いと関係ないとしても、まち協としてどうなのかというところを、

もう少し話し合いをもったほうがいいのではということがあり、単に行事をやっていくとか、支え合いのしくみづくりをやっていくという時に、もう一歩まち協として踏み込んで大きな視点で見ていくようにしていくことを、今年度から少しずつ話し合いをもつとか、部会というよりも部員さんたちとの話し合いをもっていきたいと思っています。

(相田副主査)

ありがとうございました。では西内野コミュニティ協議会のご報告お願いいたします。

(堀委員)

ご覧のとおりですが、除雪、伐採、ごみ出し支援、また健康教室等をやっておりますが、スタッフのほうが高齢化していて、若い方でも65歳という状況で、どちらが作業するのかみたいな感じになっており、大丈夫かなというのを伺っております。

それから、ここに記載はないですが、昨年二人の方が行方不明になった事件がありまして、一人は十数キロ歩いた赤塚で見つかりました。状況的に設置してあった防犯カメラを見て、ここを通ったなというのが分かりました。10年間一度も見たことがない防犯カメラを警察の依頼を受けて見てどこに行ったというのが分かったのですけれども、もう一人は全く分からない状況でした。今年度、小学校にott aという、これくらいのカードを持っていくと、小学校でどこへ行ったか分かるという誘拐防止をやっているのですが、老人にも付けて欲しいなとつくづく思ったところであります。とにかく徘徊という、先ほどご指摘がありましたけれども、ott aをつけてもらえれば早く見つかったのではないのかなと思います。

次に西区役所から依頼を受けてアンケートを行いました。これはどうやって西内野を住みやすくしていくのかというもののなのですが、町内会長もそれぞれのお宅に何人住んでいるか把握していないのでどうやって全員にアンケートを取ろうか、現在も知恵を絞っているところです。

また、健康づくりや顔が見える関係づくりを目的に昨年度からラジオ体操を自主的に取り組んでいます。祭りも各町内でということでやっております。花火大会は西内野でもしており、これを地域の核として小学校で各クラスごとにスターインをデザインしたり、それを小学校が発表するというので、より地域の愛着が進むような形でやっております。

今年度です。自主防災訓練ですが、今年1月1日の能登半島地震において、かなりの方が避難をしました。西高校ですと400人避難して、100匹の犬や猫を連れて避難してきまして、被害がなかったが故に、いい避難訓練になったと思います。またペット100匹もどうしようかなという問題が見えてきたところです。

次に、ホームページの掲載を今年から始めて、具体的に花火をやるかどうか、色々な行事をやるかどうかというのをホームページに記載しています。またアンケートも場所によってはグーグルホームを利用して、中学校、高校、あと若い方はグーグルホームのアンケートのほうがりやすいということで、それを先ほど言ったアンケートに繋げないかというところでありま

す。健康教室も今年は落語を新大の落研の方にやっていただいたり、それから3B体操とか、参加しやすいような工夫をしています。

(相田副主査)

ありがとうございました。続いて、中野小屋中学校区になります。

(鍋谷事務局長補佐)

小竹委員に代わって社会福祉協議会の鍋谷が報告させていただきます。令和5年度で一番大きかったのは何十年も続いていたのですがコロナで4年間できなかった親子三代ふれあい会、それから瑞穂祭を開催できたことです。こちらは高齢者の長寿の方を三代にわたって子ども、親、おじいちゃん、おばあちゃんが全員集まってやる地域の敬老会です。瑞穂祭のほうは、文化祭と農業祭が合わさったような形のイベントです。こちらが何年も今年こそやろうといったのが、4年とも会議はやったのだけれどもできなかったのですが、昨年度、久しぶりに開催できたということで、皆さん喜んでいました。

また、責任者の集いという話し合いの懇親会があるのですが、こちらも4年ぶりに実施できたことを皆さん誇りにしていました。

また、親子三代ふれあい会は、丸一日ではなくて半日の形で開催したのですが、参加した皆さんもこういう形もいいのではないかということで、今後の新しい実施の仕方が見えてきたよねという話をされていました。

今年度ですが、親子三代ふれあい会と瑞穂祭の実施、それから毎年やっていた宿題を仕上げる会、こちらは小中学生の学習支援プラス遊びなどをして地域の方と交流できるようなイベントなのですが、こちらもコロナ禍でストップしていたのですが、今年、冬休みについての宿題を仕上げる会をやろうということが決まっております、開催いたします。

また、こちらも何年も止まっていた民生委員さんと自治会長の情報交換会を令和6年度こそ実施しようというお話が出ていました。

また、中野小屋地区は、自主防災組織が実はないのですが、昨年、今年と会議を何度もしまして、この夏に自主防災組織が立ち上がる予定でいます。

(相田副主査)

ありがとうございました。続きまして、コミュニティ佐潟の伊藤委員お願いします。

(伊藤委員)

コミュニティ佐潟です。学校区でいうと赤塚中学校区になります。課題としましては、各世帯のつながりの希薄化、また自治会の班によっては班員の高齢化や人数が少ないということで、互助活動の維持が困難な班が出てきました。それから、空き家の発生や高齢世帯の増加、もともと地域的に公共交通機関が不足気味なのですが、さらにこの点が不便になってきていて、買い物難民等が出てきているという話がありました。

それから、コロナ禍以降、なおさらコミュニケーションの取り方や情報共有の方法に困っている、どのようにしたらいいかという話もありました。それと、支援を必要としている方を把握し、そういう方に情報提供をするのだけれども、その方たちが必ずしもそれを受け取らないとか、受け取っても参加につながらなくて、そういう点はどうしていったらいいのかというような課題もありました。今言ったことは最近特に生じたというよりも、今までもあったけれども、いよいよ何らかの手を打たないと手遅れになってしまうのではないかという段階に入ってきているふうに感じました。

(相田副主事)

ありがとうございます。それでは、今年度取り組んでいきたいことをお願いします。

(伊藤委員)

昨年度、初めて民生委員と自治会長の情報交換会を行いました。赤塚中学校区は、毎年、自治会長が交替するという地区が多くあり、民生委員さんとの連携が全く取れていない、また民生委員さんの仕事自体が把握できていないという自治会長さんがたくさんいらっしゃるということで、情報交換会をもちました。助け合いゲームを体験してみて、非常に打ち解けて、またどうということが課題なのかというのが目に見えてとても良かったということで、今年度に限らず今後も継続して充実した会にしていきたいと思っています。

そんな中で、計画には載せていないのですが、自治会長の方からの要請で、高齢者中心の居場所づくりを今年度、取り組むことになりました。長寿会が高齢化で活動が停止しているところがほとんどで、居場所づくりができていないということで、そこを民生委員や地区社会福祉協議会が中心になって取り組んでいこうという計画をしているところです。

(相田副主査)

ありがとうございました。続きまして、坂井輪中学校区の桑原委員、お願いします。

(桑原委員)

昨年度の振り返りについては記載のとおりですが、①の「地域に関心を持ってもらい、つながりを強める」というところの一番下のポチですが、昨年初めて健康・輪づくり交流会を開催いたしました。これは地区社会福祉協議会並びに福祉部門の関係者が中心になって実施をしたもので、200名程度の参加をいただき、多世代交流が図られたのではないかということで、今年も計画をしているところであります。

いずれにしても、各部門がそれぞれ目標に向かって、みんなが同じ方向を向いて活動しているということが坂中まち協としても、それなりの成果が出ているのだというふうに皆さん共有しております。

続いて、今年度の取組みですが、これまでの活動を踏まえての取組みに加えて、令和6年度は震災を受けた地域並びに、とりわけ坂井輪中学校の生徒を中心とした取組みが新たに取り上

げられております。

(相田副主査)

ありがとうございます。次に、坂井輪小学校・小新中学校区、円山委員お願いします。

(円山委員)

昨年度、第1回のカーリンコン大会を開催して、30人近い人が集まったのですが、内容を知らないで来ている人も多く、説明しながらでしたが非常にゲームのほうは盛り上がりました。

オータムフェスタですが、小学校の器楽部、中学校の吹奏楽部の演奏、そして射的やボールゲーム、ビンゴ大会というものをやりまして盛り上がりました。また、人権擁護委員のPRや防災士による防災コーナーといったものを作って非常に効果がありました。

それから、子ども食堂は年に4回くらいやったのですが、コロナ禍のときはテイクアウトでしたが、今回初めて実際のところで食事をしまして、非常によかったと思います。

次に、福祉について講演会がありまして、「いのちのひとりぼっちをつくらない」というテーマで、坂井輪診療所の先生に来ていただきまして、素晴らしい講演をしていただきました。高齢者のひとりぼっちをつくらない、それが大事になってくると思います。

てくてくウォーキングですが、2キロと5キロコースの歩け歩け運動ですけれども、非常に高齢者が大勢、88人くらい集まりまして、非常に盛り上がりました。

また、ブロック会議を年に2回、各ブロックを四つに分けて行い、色々な地域の問題点が出て、有意義な会議になりました。

防犯ですが、各小学校と中学校で防犯の活動を別々に行っております。特に今回地震があり、津波がくるということで、皆さんが心配して小学校に勝手にどんどん入りまして、それが400人も集まって非常に大変だったので、区役所とも連携を取りながら、新しい方法でやっていこうと思って今、計画しております。

今年度ですが、カーリンコン大会を第2回、第3回とやっていく予定で、現在、第2回が終わりまして、40名位と人数もだんだんと増えてきました。

てくてくウォーキングですが、前回から障がいを持った方も参加していただくことになり、今回も障がいを持った方も参加できるようなものになりたいと考えています。

また「らっくり」を開催し運営指導員から体操等をやってもらい非常に盛り上がっています。あと小新中学校では、小新の森という中学校の花壇の植栽活動をしています。

防犯の面では、地域の交通安全を重視しており、横断幕を作成して掲示したり、ヘルメット着用の広報推進をしていこうと思っております。

(相田副主査)

ありがとうございました。続きまして、東青山小学校区よりお願いいたします。

(川村委員)

私たちの地区は関屋分水の畔から西川の辺りまでで、イオン青山を中心に大きなマンションがあったり、昔からの住宅があったりと色々な方とコミュニケーションを図らなければならない地区になります。昨年度は、コロナの時期にできなかったものを再開し始めた時期でした。記載のあるすすく広場、ふれあい祭り、また記載はしていませんが、絵手紙教室、囲碁教室等は、イオン青山の中にあるコミュニティ協議会の場所で常に使える状況にあるというのが一つの大きな特徴だと思っています。なので、今までできなかったものが再開できたということが一つの大きな成果になると思います。①の一番下に記載していますが、各自治会の総会が、まだ完全に集まれていないため自治会の中での共有が不十分であったかなということが一つ課題だったと思っています。

(相田副主査)

ありがとうございます。では今年度の取組みについて、お願いします。

(川村委員)

今年1月1日の地震で私どもの地域も被害が多くありましたが、一番大変だったのは高齢の方やお子さんの不安が大きかったことです。この部分を皆さんと共有できるよういかにその方たちへの不安を解消していくか、あるいは各自治会の中でも顔がわかる状況にできるかという、コミュニケーションづくりというものが今回のテーマになってくるのかなと思っています。やることはいつもと変わりないですが、ふれあい祭りやすすく広場を運営する役員、あるいは自治会がみんなを助けようという思いが必要なんだと思いますし、そういうことを作っていきたいというのが今年の課題だと思います。

(相田副主査)

川村委員ありがとうございました。続きまして、五十嵐小学校区の岩城委員をお願いします。

(岩城委員)

五十嵐小学校区は、私のところは22自治会あり、最大規模は650世帯ですが、新潟大学の近くは50世帯とか40世帯と、非常に差が大きいという特色があります。そこで去年は啓発活動をやりたいということで、コミュニティ協議会の理事会を開催する前に社協の鍋谷補佐に来ていただき自治会でできる福祉活動というテーマで話をさせていただきましたが、非常に好評で、自治会によっては友愛訪問だとか、そういう基本的なことを知らない自治会もあったということで、これは役に立ったのではないかと思います。

また去年の特色としては、地元の五十嵐小学校の5年生が地域の福祉活動を総合学習のテーマに選んだということもあって、児童と一緒に友愛訪問をやったり、コミュニティ協議会でやっているふうせんクラブという幼児対象のところに5年生が来て、赤ちゃんを抱いたりして、そんな形で、いずれこんなことが役に立ったらいいなというふうに思いました。

また、五十嵐小学校の校長さんから講演会をやっていただき、今変わりつつある学校教育



についての啓発活動もできたということです。これが昨年度の振り返りです。

今年度は、引き続き地道に啓発活動、また勉強会を続けていこうと思っています。それからまた今年の特徴としては、新潟市が始めた医療と介護の市民講座というものがあまして、これに乗っかり、福祉部会で当地区は信楽園病院があつて担当なのですが、そこと9月に勉強会をやると思っています。テーマはアドバンス・ケア・プランニングということで、人生会議、終末期医療ですね、これを少し窓口を広げて参加者を募ってやると思っています。

また地震で避難行動要支援名簿を各自治会に半年ごとに送られてくるが、これをどういうふうに扱うのかがいつも問題になっていまして、行政の立場も今年は確認していこうということで、区政懇談会のようにやりました。また、私もコミュニティハウスが指定管理になっている関係で、1月1日に避難所対応をやりましたが、3メートルくらいの津波なら五十嵐浜を超えられないだろうと思うが、現実問題としては皆さんパニックになって来ている。やはりこの辺りの津波の高さと避難の確認をきちんとやっていきたいと思っています。

(相田副主査)

岩城委員ありがとうございました。続いて、真砂小学校区ですが、佐野委員が欠席のため、社会福祉協議会より報告させていただきます。

(鈴木主査)

西区社会福祉協議会の鈴木です。昨年度の懇談会では、①の「地域のつながりを強化し、困ったときに頼れる地域づくり」というところでは、コロナの5類の移行に伴って、自治会の活動をコロナ前に戻して取り組んでおられたという報告がありました。

②の「みんなが参画できる地域づくり」では、地区には明倫短期大学がありますが、コミュニティ協議会と真砂小学校、明倫短大との合同の地域文化祭を開催したということで、賑わいがあつたとの報告がありました。

③の「みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり」では、小学校の見守りや、行事ボランティアさんがなかなか新たな方が加わるということがなく、やはり広く色々な方の協力を求めているという話がありました。

そして、この元日の地震について、真砂地域でも津波警報が出たということで、避難をした人、できなかった人、いろいろ地域の状況報告がなされましたが、今後の改善点はどこがあるのかということの洗い出しが必要ではないかという話がありました。例えば小中学校の登校中、下校中に災害が発生したときに、自宅に帰ったらいいのか、あるいはそのまま学校にいたらいいのかという課題もありまして、そのことについての問題提起がありました。

今年度の取り組みとして、今の登下校中での災害発生時については、やはり家庭内で家族会議をして避難場所を確認したり、外出先や登校中、下校中、どうしたらいいのかということは家族の中で話し合いを行うなど啓発をしていこうという話が出ていました。

そして、明倫短大と地域と小学校で今年度も引き続き、地域住民の皆さんと交流ができる、つながりができる、そういった取組みとなるように一層連携して取り組んでいきたいという話がありました。

あとは④のフードバンク活動の取組みを行うということですが、まだフードバンクの取組みはなかなかできないけれども、一人親家庭、やはり一人の親御さんでは地域行事にもなかなか参加できないだろう、災害時の避難時もうどうい支援があったらいいのだろうということを考えていきたいということでの話がありました。

(相田副主査)

ありがとうございました。続きまして、青山小学校区の五十嵐委員より報告をお願いします。

(五十嵐委員)

我が地域も皆さんと同じような活動をやっておりますが、コロナ禍でなくなった子ども食堂が、まだ復活しないという課題があります。

また、認知症の徘徊模擬訓練を昨年、有明福祉施設の中で行ったのですが、今年は福祉施設外の住宅が密集している浦山地区での模擬訓練をやろうと計画していますが、その最中に、現実には徘徊者が無料でお金を持っていないままバスに乗ったということで、コミュニティハウス内でバスの運転手との方が言い合いをしている状況で、よく聞いてみると数年前に同じようなことがあったということでした。交番にも早く連携を取りながら動くといいのではといった話をしているところです。そういう意味で、高齢者の問題で民生委員さんを通じての見守りを去年もずっと継続してやっております。地域で関わる人を増やしていきたいが、やはり役員を引き受けてくれる人がいない、特に民生委員さんと何度も話し合いをしたのですが、今忙しそうな雰囲気をもみんな知っているものだから、ちょっと自分ではできないというような話が出ています。でも最近は男性の民生委員も多くなってきて、いい傾向だなと思っておりますが、それでもなかなか次の民生委員さんが決まらないという現状です。

あとは「安心・安全に暮らせる地域づくり」というところで、有明福祉センターの中でふれあいまつりをやって、小中学生などを中心的に呼び込むような内容なので、大人も加わって小学生と接するいい場所になっているのでこれからも継続しようと思っております。特に私たちの地域で小学生の痛ましい事件が起こったので、セーフティスタッフはみなさん意識して取り組んでいる感じです。ただ、道路が狭くて歩道や側溝の上しか歩けない区間があったり、非常に危険もいっぱいありますので、注意を重ねながら安心して通学できるような配慮を続けていきます。

子育てサロンという子どもさんを持った人たちの交流をする場所を設けていたのですが、コロナ禍の状況から戻っていませんが、おしゃべりカフェの案内を回覧したり、また小さいお子さんがいるところなどに配ったりしています。助産師さんや保健師さんに時々入ってもらって

安心して子育てができる環境づくりをしている状況です。

今年度ですが、今ほどの子育てカフェについて担当者と検討をしながら進めています。

あと、関屋分水寄りには非常に地盤が低くなっていて分水から溢水すると大変なので、防災担当が工夫しながら防災計画や防災マップの見直しをしているところです。また災害講演会をやると言っているのも、そうした中で安全な避難への活動に力を入れているところです。

それから、若い世代と話す場所を増やそうということについては、アパートに住んでいるような世代の人たちが無関心層も多いためなかなか進みませんが、力を入れていかなければいけないと思っています。

あと今回の地震の際は、ほとんどの人が、西大通まで上がりました。私も町内を回って見ましたが、一緒に誘いながら避難している姿を見ました。ただ避難する場所にトイレがないということが分かったので自治会ごとで避難ができるような場所を見つけて確保してほしいと防災の方に検討をお願いしているところです。また民生委員さんの子どもたちの見守り、それから学校へ行ってのいろいろな活動も一生懸命やってくれているので、さらにそういうものが進むように努力していきたいと思っています。

(相田副主査)

五十嵐委員ありがとうございました。続きまして、小針小学校区、藤本委員お願いします。

(藤本委員)

昨年度の取組みについてですが、①でコミ協だよりに民生委員の名前と担当の自治会を掲載しました。10年前くらいに区だよりだったと思うのですが、民生委員の名前だけでなく住所も掲載されたことがあり意見や文句などもあったので、今回は名前だけの掲載としました。

②について、こばりっこランドですが参加してくださる方が大勢いらっしゃいました。また小針納涼祭ですが参加者が1,500名でした。今年は昨日8月25日に行いましたが、コロナも落ち着き1,800名くらい来られたのではないかとということです。

③の友愛訪問では高齢者の支え合いに努めています。視覚障がいを持つ方の講演会を開催することができました。これは盲導犬を持っている女性の方に来ていただいて話を伺ったのですが、目の不自由な方はどういう生活をしているのかというもので、健常者だけの講演会ではなくて、障がいを持っている方の話を聞くのもいいことだと賛同を得られました。今年も新潟医療センターの医師の講演会を開催する予定です。

④の「安心安全に暮らせるまちづくり」ということで、防災教室の実施というのが小針小学校とタイアップして行われました。これは新聞紙でスリッパを作って災害時に使えることを紹介してもらったりとなかなか盛況でした。

それと先ほど青山小学校区さんの話で痛ましい事件の話がありましたが、小針小学校区でもマップを作りまして、あまり町内の姿がわかるといけないので道路線上だけに書いて、ここは

空き家ですよ、ここは繁みですよ、ここはちょっと危険ですよというふうなマップを作って全戸配布いたしました。昨年度の振り返りは以上です。

今年度の取り組みの①で、コミ協だよりに地域包括支援センターの記事を掲載する予定です。

また民生委員と自治会との情報交換を行いたいと思っています。小針地区では2か所で民生委員の欠員が出ております。その中で、自治会長さんは輪番制で1年や2年というところが多くて、長く務めておられる自治会長さんが割と数が少ないため、自治会長と民生委員との話し合いの場をもったほうがいいのではないかという話になりました。

次に②ですが、高齢者だけに目が行きがちですが、これから育つ子どもたちの福祉教育というのを踏まえてやっていきたいということです。小針納涼大会の参加は毎年やっており、今回は1,800名、それと、こばりっこ新春かくし芸大会は今年も開催いたします。

③のとして、地域の方の意見を聞きながら講演会を開いておまして、今年新潟医療センターの五十嵐先生から糖尿病について話をさせていただきます。「区だより」や「る一と」に掲載されますので、皆さんよかったですらお越してください。

最後④で合同防災教室の充実でということで、防災訓練を小学校とタイアップして行います。あと、ながら見守りの強化ということで、ペットの散歩をしていらっしゃる方をお願いして散歩をしながら見守りをお願いしています。

(相田副主査)

藤本委員ありがとうございました。続きまして黒埼南小学校区、保苺委員お願いします。

(保苺委員)

昨年度の取り組みは記載のとおりですが、その中でも、黒鳥の花火大会なのですけども、これは自治会ではなくて若者が始めたもので、それがずっと続いているというのが取組みとしては大きいと思っています。

あと地域の課題というところで、先ほど青木委員長からは、西区はお買い物大丈夫ですよというお言葉がありましたが、実はうちの黒埼南地区というのは本当に何も無い農村地区で、かといって高齢者が多く、また高齢者方は家の人からもう車はやめてねというふうな形で、もうどこにも行けない、でも子どもたちは仕事に行っていてという、そういうふうな生活があるので、それをなんとかしたいねという話が出ています。あとは全くバスが通らなくなっちゃった、新潟交通さんさんが止めてしまったところもあるので、そんなところを課題として挙げています。あとは非常に空き家が増えていて、空き家バンクみたいなものを作りたいねという話も出ました。

あとは地域にいくつかお店があるので、そのお店にぜひともお惣菜を作ってもらって、そこだったら買いに行けるんじゃないかとかという話も出ています。

今年度の取り組みとしては、農業まつりというものをぜひ是非やろうというところと、「くろ

とりみんなの花火」というものを、その人たちだけじゃなくて自治会がもっと賛同して、一緒になってやろうよというような話が出ています。

(相田副主査)

保苺委員ありがとうございました。続きまして、大野小学校区、中野委員をお願いします。

(中野委員)

大野小学校区というのは、大野町を中心として昔は栄えていたのですが、8号線ができて商店街がだんだん新潟の経済圏に取られ、その周辺に住宅ができて、あとは農業と共存していますが高齢化が始まってきているような感じです。

住宅地域については、自治会ごとに色々なイベント等をやっているのですが、その中で、自治会の役員のなり手がいない、それで積極的に意見を言わない、この前、防災訓練をやったときに参加者ゼロの町内があったくらいです。今後このようなことが非常に問題になっていくと思います。あと本来であればイベントをやるにしたとしても、子どもが出ると奥さんが出る、奥さんが出ると旦那が出る、旦那が出ると年寄りが出て、それで賑やかになるという構図ですが、子どもも少なくなって核家族化しています。小学校のプール開放もPTAで対応ができなくなってしまったという話を聞きました。これも今後の課題になると思います。

今年度の取組みとしては、フロアカーリングというイベントを企画して各自治会と交流の場を設けようということと、もう一つ、今まで町中で盆踊り大会を行っていましたが、コロナで休んでいて、今年度は神社の境内で地域も広げてやりたいと思っています。

あと防災については、地域が大野小学校、黒崎中学校、黒崎市民会館、翠江高校と4つあるのですが、これまでなかなかまとまりがつかなかったのですが、今回の能登半島地震を機に、正式に組織を作ったので今後それを進めていきたいと思っています。

(相田副主査)

中野委員ありがとうございました。では立仏小学校区の解良委員より報告をお願いします。

(解良委員)

1 番の健康体操はとても好評で会場に入りきれないくらい好評でした。高齢者が多いが大半が歩いて来られています。

2 番目では小学校の読み聞かせボランティアを再開して、子どもたちが一番喜んでいるようです。

3 番目の「地域全体で暮らしを支え合い安心できる生活」では、高齢者のいきいき教室が月2回あるのですが、そこへ移動販売のとくし丸を目当てにして来てくださる方が多く、買い物に行けないお年寄りはとても喜んでいきます。

今年度の取り組みですが、オレンジロードを利用したウォーキング大会を計画していましたが暑さのため中止となってしまいました。

(相田副主査)

解良委員ありがとうございました。もう一つ、山田小学校区があるのですが、1月1日の地震の関係で地区別懇談会ができていませんでした。今年度は行えればなと思っています。

皆様、発表、報告ありがとうございました。最後に質疑の時間を設けたいと思います。全体を通して、または報告された以外のものでも記載のある中で、興味があるものにぜひ質問をいただくとありがたいです。質問のある方は挙手をお願いします。川村委員をお願いします。

(川村委員)

青木委員長からの話で、高齢の方がゴミ出しで怒られてだんだんゴミが溜まっていくという内容で身に染みて感じたのですが、うちの町内でも間違いがあつて、クリーン推進員はとても困っているのですが、一つなんとなくこうしたらいいのではと思ったのは、例えば紙ゴミの中にプラがあつたら、「これはプラゴミなので何曜日に出してください」と書いてあげるといいのではないかなと思いました。違反というシールでは何が違っているか分からないし、どうしたらいいか書いてあげればすごく優しく感じます。全部が全部できるわけではないけれども、そういうところから始めたらどうかなという気がしましたが、いかがでしょうか。

(相田副主査)

青木委員長をお願いします。

(青木委員長)

川村委員ありがとうございました。本当におっしゃるとおりだと思います。私の町内でも、持っていけないわけじゃないけれども、ごみステーションの脇のところにシールだけ貼られてポンと置いていって、当然、捨てた本人は自分の物だと分かるのだけれども、出したもので何が悪かったのだということが実際分からない、おっしゃるとおりです。それをこの中で何がだめだったかということを一筆書いて貼るとするのは本当に手間なのだけれども、でもそういうことを繰り返していかないと多分直らないのでしょうね。環境を担当している部会の方が、いつも嘆くのもよく分かるし、うちの町内の場合ですとデジカメで写真を撮って、それをゴミのところに貼っていて、こういう出し方がだめだという形でやっていることもありましたね。いずれにしても工夫は色々しているようです。ただ、収集しませんよとポンとその辺に投げているわけではないということですので、貴重なご意見ありがとうございました。

(相田副主査)

ありがとうございます。その他にどうですか。桑原委員をお願いします。

(桑原委員)

坂井輪小学校・小新中学校区のお取り組みについてお尋ねします。私も民生委員をやっているのですが、令和6年度に取り組んでいきたいことの③の三つ目、「33 自治会と民生委員とのエリア別ブロック会議とブロック長と役員会議を開催する」という

のは、具体的にはどのようなことをされる予定なのかお聞かせ願えればと思います。

(相田副主査)

円山委員お願いいたします。

(円山委員)

うちは自治会が多くありまして、全部で約 6,000 人くらいの人口がいるのですけれども、その中で、コミュニケーションをよくするためには、やはり話し合いが必要なので、地区ごとにブロック別に分けて実施しています。

やはりその地区によって違う問題が出ているので、そのところで話し合うと非常にお互いの悩みがよく分かったり、やはり顔が見えるというのは特に大事なところなので、非常にいいということで実施しています。ただ、去年はブロック会議を 2 回やったのですけれども、今年はなかなか 2 回というのは大変ということで 1 回にする予定で、実際もう実施しました。その他に今度はブロック長を集めた会議は別に 2 回やりますので、そこで色々なことを話し合いたいと思っています。よろしいでしょうか。

(社会福祉協議会：相田)

桑原委員、大丈夫でしょうか。

(桑原委員)

ここに民生委員が関わっているというのは、ブロックを 4 つにわけたブロック会議の中に、そのブロックの民生委員の方が参加をして会議を開いているということなのですか。

(円山委員)

それぞれ民生委員が 5 人いますけれども、各ブロックの担当地区がありまして、その担当の地区のブロック会議に出ています。そういった面の効率化は図られていると思います。

(桑原委員)

ありがとうございました。

(社会福祉協議会：相田)

皆さま大変ありがとうございました。以上で地域別計画の報告を終わります。

#### ◇次第 4 事務連絡

(須貝係長)

皆様、長時間にわたりありがとうございました。私も一つ聞かせていただいた中で、桑原委員の報告にもありましたが、皆さまの活動の中で民生委員と自治会長さんとの情報交換の場が設けられたというものがありましたが、来年度民生委員の一斉改選もありますのでそれを踏まえながら民生委員と自治会長の情報交換をぜひお願いしたいと思います。

それでは次第 4 事務連絡ですが、事務局よりお願いします。

- ・「災害後のこころとからだのケア講演会」の案内（西区健康福祉課）
- ・西区ささえあいセンターの開設について（西区健康福祉課）
- ・12月の社協主催の地区懇談会に向けての勉強会について連絡（西区社会福祉協議会）

#### ◇次第5 閉会

（須貝係長）

それでは、全体総括といたしまして、岩城副委員長よりお話をいただきたいと思います。岩城副委員長、お願いします。

（岩城副委員長）

皆さま、長時間ご苦勞様でございました。私も本日お聞きして、毎年のことですが色々な活動をなさっていると感心して、また敬意を表したいと思います。今ほどお話もありましたが、自治会長と民生委員との懇談ですが、個人情報をもっと堅苦しくこだわってられない時期に来ているのではないかと考えています。また自治会長と民生委員が情報共有することは、民生委員の負担軽減にもなるはずで、民生委員の欠員が多い中で少しでも負担を軽減することはいいことではないかと思っています。それから、今日お話の中でコロナが一段落したところで行事を復活した話がありましたけど、内野小学校区のように復活するだけでなく見直して新しい形を考えていくという取り組みの報告を聞いて、災いを福に変える感じがあっていいのではないかなと思いました。また地震関連のお話も多かったですが、情報ですね、数年前も津波注意報が出た際に、皆さんかなり避難されている。津波注意報というのは海岸にいる人が海岸から離ればいいだけの話で今回も3メートルの高さの津波で五十嵐浜を超えないのにパニック状態になって避難してくる。だからこのあたり、情報さえ皆さんがしっかり持っていればなにも慌てることのないわけで、そのあたりが脆弱だったと思うわけです。ハザードマップはわかりにくいので、わかりやすく変えて、今年度また各戸配布すると区長もおっしゃっていましたので、それを待ちたいと思います。そんなことを今日の会議で感じました。皆さま本日はお疲れさまでございました。

（須貝係長）

岩城副委員長ありがとうございました。

それでは以上で「令和6年度 第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会」を終了いたします。皆さま、長時間にわたりありがとうございました。